

## 岐阜県感染症発生動向調査（2019年第06週～第09週分、2月分）コメント

### 感染症全般（性感染症を除く）

平成31年3月20日

月番：加藤 達雄

#### <全数把握対象疾患>

- ・ 一類感染症については、発生報告は無い。
- ・ 二類感染症については、結核は、発症患者は前年同期までの累計と比較し、本年の累計報告数は前年と横ばいである。70歳以上が63%を占めるが、20～30才代も23%で昨年より若年者の結核が増加している。潜在性結核感染症はやや減少している。
- ・ 三類感染症については、腸管出血性大腸菌感染症では、0157が6週、7週に集中し報告されている。
- ・ 四類感染症については、レジオネラの散発例の報告がみられる。
- ・ 五類感染症については、百日咳の報告が前年同期までの累計と比較し増加している。
- ・ この期間で、風疹、麻疹患者の報告例はない。

#### <定点把握対象疾患>

- ・ インフルエンザは前月より大きく減少した。
- ・ 伝染性紅斑は前月より大きく減少したが、前年と比較して多い。
- ・ 流行性角結膜炎は減少なく、前年より多く報告されている。
- ・ メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症は、前々年、前年より多く報告されている。

- ・ 結核は、毎週コンスタントに報告され、本年は高齢者が多いものの、20～30才代も2割を占めており、県民および医療者への注意喚起・啓発が必要である。
- ・ 流行性角結膜炎は、前年より多く報告されており、県民への注意喚起・啓発が必要である。
- ・ この期間に風疹、麻疹の岐阜県での報告はなかったが、引き続きワクチン接種の推奨を含め、県民への注意喚起・啓発が必要である。